

事故報告件数											ヒヤリハット報告件数			
11月	骨折	転倒	尻餅	皮下出血	転落	誤薬	誤嚥	感染	その他	計	11月	計	12月	計
特養	0	0	3	0	1	1	0	0	1	6	特養	5	特養	4
短期入所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	短期入所	2	短期入所	2
12月	骨折	転倒	尻餅	皮下出血	転落	誤薬	誤嚥	感染	その他	計				
特養	0	2	2	0	0	0	0	0	3	7				
短期入所	0	1	2	0	0	0	0	0	1	4				

※安立園独自の事故・ヒヤリハットの区分に基づき集計した件数になります。

～多職種アプローチ～

安立園のICT(インターネット・コミュニケーション・テクノロジー)

食事の席ひとつ決めるのも、多職種で話し合います。介護職、看護職、管理栄養士、ケアマネ、相談員などなど。みんなが一番幸せになる席はどこか？話し合っ決めていきます。大型ディスプレイを使用し、良いケアを考えます。



2021.12.3 施設長 原

研修 ～介護職員初任者研修を終えて～

当園では、学習の機会を作る努力をしています。今回は、非常勤・食事パートの野田職員が16日間の研修を受講しました。ご苦労様でした。

『今回のスクリーニングの中で、強く心に残ったのは『全介助ありきではなく、利用者様の今ある能力を生かす、部分介助を見極める』と言う点でした。ついやってしまっていたことも、研修後は出来ない部分をサポートすると言う意識が変わりました。また、数々の実習を通して利用者様と介護側とを体験しました。ムース食の授業では、メニューを知って食べるのと知らずに食べるのでは、味覚に変化がありました。食事介助に入る前の「挨拶→体調確認→説明→同意を得る」の流れも早速活かしていきたいと思います。』



非常勤・食事パート 野田美保



研修 【新人研修】～介護現場の看護職～

新入常勤看護職員の瀧本職員の職員研修をおこなった感想文です。『介護現場の看護職』の文章を学習してもらいました。「治療・治す病院看護から、生活を支える施設看護」へ転換するには、学習をしていきましょう。

『文章を読んで、私は病院看護の延長で、食事量や水分量を気にかけてすぎてしまっていると感じました。食べる量や飲む量の減少は老衰のプロセスです。しかし、つい『水分だけでも摂ってもらいたい』と、辛そうな表情なのに無理に勧めてしまうこともあり、反省しました。この考えは今の利用者様には邪魔になることもあり、苦しませてしまうこともあると心の中にとどめます。価値の転換の大切さ『嫌なことはしない』という価値観を大事にして働きたいと思います。痛い、つらい、苦しいを取って差し上げ、穏やかな生活が送れるよう、看護、介護をしていきたいです。』



看護職員 瀧本光世
出身地：東京都
趣味：温泉旅行（国内）



2021 11/14 お楽しみ食【お寿司】
本日のお昼は皆さんが大好きなお寿司！
厨房で握った美味しそうなお寿司に自然と笑みがこぼれ、おかわりされる方もいて、皆さんとても喜ばれていました。

～ご家族の皆様へお知らせ～

当ホームでは、日々の介護・看護業務において大切に考えている、「7つの基準」があります。前号に引き続きその中の一つを説明させていただきます。

7つの基準 その⑤【自律した生活】

「自立」ではなく、「自律(コントロール)」がキーワードです。現在、当園の要介護度は平均4.2、平均年齢は89歳です。施設の利用者は、数年前に比べると、とても重度化しています。ここで最後まで暮らしたいとの希望が多く、終末期が近づいている方が増えており、当然に利用者の体の自立度は低下してきます。

しかし、ご自身に意志があれば、最後の瞬間までその力を使い切れるように援助したいと思います。立ち上がりが困難になれば、介護機器を使って移乗したり、さらに老衰が進行しベッド上の生活が長くなっても、好きなテレビを見たり、ラジオが好きの方もいます。近所のセブンイレブンさんが注文品を届けてくれるので今まで好きだったお菓子も食べられます。新聞を取っている方もいます。眠っている時間が長くなっても、食べる力、飲み込む力があれば生きていくことができます。車イスに座れるならば、移動もできますし、入浴も可能です。ご本人の永年の習慣で10分以上湯舟で温まる方もいます。

私たちの仕事は、人間の最後の力を使い切ってその意志に沿って、一生を終えていけるよう援助することです。生きていくのはご本人ですので、私たちは最後の時まで、後悔のないよう、自律の支援を続けます。

特養ホーム 施設長 原健作



● おおくなりになられた方 ●
〇〇様 83歳 〇〇様 93歳
施設で看取る事が出来ました。 謹んでご冥福をお祈りいたします。